



つばさ

第18号

平成29年3月3日発行
富山県立高岡高等支援学校

「一歩ずつ 前に進もう 一つずつ 夢かなえよう」

校長 中浦 雅子

昨年10月の文化祭のステージ発表で、3年生は将来の夢を発表していました。

「働いたお金で友達と東京旅行に行く」

「長く働ける社会人になって、家族と旅行する」

「たくさんお金を貯めて、親を温泉に連れていく」

皆さんは、卒業して社会人になり、それぞれの道を歩んでいきますが、それぞれが抱いた夢をぜひ実現してほしいと思います。

夢の実現のためには、まず、自分の努力が必要です。皆さんは、本校に入学し、作業学習や就業体験、様々な授業や行事でたくさんの初めてのことに挑戦し、友達と一緒に3年間頑張ってきました。その経験を通して、やればできるという気持ちを持たたのではないのでしょうか。そのことを思い出して、人の役に立つために、そして、人から必要とされるように、卒業後の毎日の生活を頑張ってください。そうすればきっと夢は実現できます。夢の実現のために、家族の皆さんや私たち学校の教職員も、皆さんを応援していきます。

今を大切に。今できることを精一杯やる。そうして、一歩ずつ前進してください。自分らしく、力強く一歩一歩前に進んでほしいと思います。いつまでも夢を持ち続け、本校の卒業生として、社会人として頑張ってください。

高岡高等支援学校第2回卒業生18名の皆さん、卒業おめでとう。

夢

卒業によせて

学年主任 松田 薫

学校生活は、楽しかったでしょうか？いよいよ社会人としてのスタートを迎えることとなりますが、楽しい人生を送れるよう祈っています。また、そのための努力を怠らないように…応援しています。

3組担任 佐藤 一秋

ご卒業おめでとうございます。高校生活は楽しかったですか？本校で過ごした楽しい思い出を胸に、社会人として、大人としての一歩を力強く踏み出してください。応援しています。

3学年所属 南 俊成

ご卒業おめでとうございます。これからの生活で楽しいこと辛いことがあると思いますが、前を向いて進んでください。様々な経験は自分の力になります。これからもありがとうの気持ちを忘れないでください。

1組担任 水上 和紀

ご卒業おめでとうございます。新生活を前に、期待と不安が大きいかと思います。文化祭で発表した「夢」をかなえるために、それぞれの道で頑張ってください。ファイトだ！2期生！！

進路指導主事 四津谷由美

ご卒業おめでとうございます。3年間学校で学んだことを忘れないでください。これからは自分で働いて得たお金で、自分の人生を楽しむことができるように責任をもち社会人として頑張ってください。

2組担任 名苗 美保

この学校に入学して、大きく成長した皆さん。3年間この学校で学んだ事に、自信と誇りをもって、一歩一歩、新たな道を前進していきましょう。皆さんのことを応援しています。

3学年所属 梶原永史子

『働く』は『傍楽=傍(はた)を楽(らく)にする』ということだそうです。これから、いよいよ『傍楽』実践の日々が始まります。家族や同僚の方々の役に立つ人になれますように… Good luck! & Never ever give up!



<受賞記録>

西郡杏津奈 第14回アビリンピックビルクリーニングB部門 努力賞
 坂田 朱音 第14回アビリンピック喫茶サービス規定競技部門 努力賞
 伊勢りいな 平成28年度障害者雇用支援月間ポスター原画 高齢・障害・求職者雇用支援機構理事長奨励賞
 大橋 史弥 平成28年度 生徒図書委員表彰

今年度、3つのアクションプラン（重点課題）を設定し、目標達成に向け取り組みました。

重点課題	達成目標	評価
1 学科：生徒の社会的・職業的自立を目指した作業学習の充実	①コミュニケーション力が向上したと自己評価できた生徒（1学年） 70% ②作業運営、作業班間の連携のためのチーフ会議の開催 年間5回以上	A
取組状況	①作業学習の始めに全体で挨拶の重要性（言葉、態度）を確認し、各班で挨拶や報告の練習を重点的に行った。（6回）「各作業班実習室に「挨拶言葉」等を掲示し、常に意識できるようにした。コミュニケーション力（挨拶、返事、報告/声量、表情、姿勢）に関する意識調査を5月と11月に実施し、75%の生徒が向上したと自己評価できた。	
今後の取組	②定期的にチーフ会議をもち、各作業班の運営状況、課題について共通理解を図った。担任、作業学習担当者、就業体験先の評価をまとめた「就労支援のためのチェックリスト」により、各生徒の実態、成長、課題についての共通理解を図った。	
	・基本的な挨拶については、ある程度の成果があった。社会的・職業的自立のためには挨拶や報告のほか、考えをまとめて伝える、相手を思いやるなどの総合的なコミュニケーション力が必要なので、さらに指導の工夫をしていく。	
	・チーフ会議では、円滑な作業学習の運営にとどまらず、一般就労を目指す生徒の実態に合った各班の作業学習の内容や進め方についても検討していく。	
2 生徒指導：携帯電話使用に関する自己指導能力を高める指導の在り方	①生徒への指導（講話、課題プリント、アンケート等） 10回以上 ②保護者への注意喚起等の取組 5回以上	A
取組状況	①外部講師による「携帯電話安全教室」等（3回）、マナーやルール、トラブル対応策等、安全で適切な使用のための指導や確認のための全体や学年での指導（7回）、課題プリント（2回）を行うとともに、アンケート（4回）で使用状況の現状を把握した。トラブルの発生を確認したときは、タイムリーに全体、または個別に指導を行った。	
今後の取組	②使用の現状、指導の様子、トラブルの事案、家庭への注意喚起依頼等について生徒指導通信（8回）を通して伝えた。外部講師による「携帯電話安全教室（保護者対象）」を開催し、持たせる側の危機管理意識の向上を図った。	
	・嫌な思いをしている生徒数は減ってきたが、ルールの徹底には至っていないので、定期的な指導、タイムリーな指導を継続する。指導がマンネリ化しないよう回数、内容、伝え方等の工夫をしていく。また、アンケート結果を生徒に知らせ、教科「情報」と連携して改善策を自ら考える機会を作っていく。	
	・「携帯電話安全教室（保護者対象）」については早い時期の開催と参加率を上げる工夫を検討し、「携帯電話を持たせる保護者の責任」についての意識の向上と家庭での見守りや指導をしてもらえる取組を検討していく。	
3 進路支援：職場定着のためのアフターケア体制の構築と職場開拓の充実	①卒業1年目のアフターケアの回数 一人当たり5回 ②「TKS未来応援団」の協力事業所数 100社	A C
取組状況	①学校と関係機関等と連携したアフターケア年間計画を作成し、富山障害者職業センターのカウンセラーやジョブコーチ、障害者就業・生活支援センターの就業支援ワーカー、就労サポーターと共に、全員について3回以上事業所を訪問した。また、担任から自宅に応援はがきを送付したり、学校行事等で来校したときに、仕事や生活状況について確認したりした。	
今後の取組	②「TKS未来応援団」の趣旨や依頼内容が伝わりやすいよう工夫したリーフレットを作成し、各種委員会外部委員、外部講師、卒業生の就職先、作業学習の受注先等、学校教育活動関係者に校長を中心に依頼を始めた。就業体験先事業所の依頼についてはタイミングが難しく、件数は伸びなかった。	
	・平成29年度は、アフターケアの対象が29名と増えることから、いつ、誰が、何の目的で行うのか等整理し、就労サポーターや関係機関と連携して、効果的かつ無理のない計画を立てて実施していく。	
	・TKS未来応援団については、基本的に管理職が依頼する形が良いと話し合った。分掌担当が、申込書の管理、HPの掲載、学校だより・進路だよりの発信等の業務を行い、今後も無理なく継続していく。また、「TKS未来応援団」が、企業との良好な関係を継続するためのツールとなるよう、活用の工夫をしていく。	

平成29年度当初の行事予定

4月10日（月）第1学期始業式 入学式

5月27日（土）第5回体育大会

28日（金）学習参観 PTA総会 学年懇談会

29日（月）振替休業日